

2023年度 環境経営活動レポート

(対象期間：2022年10月1日～2023年9月30日)



 株式会社 丸真熱処理工業

山梨県甲斐市玉川1578

電話 055-276-4952

FAX 055-276-5041

作成日：2023年12月15日

もくじ

1.環境方針	P.3
2.組織の概要	P.4
3.実施体制図及び役割・責任・権限表	P.5
4.主な環境負荷の実績	P.6 P.7
5.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	P.7
6.代表者による全体の評価と見直し	P.8
7.環境活動の紹介	P.8



『 環境理念 』

当社は一般金属熱処理業(鉄鋼・非鉄金属・金属製品)として、昭和47年の創業以来、お客様第一のもと、高品質の維持と短納期を目標に社員一人ひとりが責任と誇りを持ってこれまで努めてまいりました。

また、地域環境に与える影響を再認識し、社員一丸となって、安全で環境に配慮し、日々の仕事を通じてコスト管理能力・現場管理能力・お客様との交渉能力を高めるよう精進することと安全衛生活動に努めています。

株式会社丸真熱処理工業
代表取締役 高木 克彦

環境経営方針

当社は、鉄鋼・非鉄金属・金属製品における一般金属熱処理を行う企業として、

1. 電力及びガソリンによる二酸化炭素削減に努めます。
2. 工程改善により消費電力量を抑え二酸化炭素削減を図ります。
3. 省資源・廃棄物削減・リサイクルを推進します。(循環型社会の構築)
4. 節水活動により水使用量の削減に取り組みます。
5. 洗浄工程の改善により洗浄剤の削減を図ります。
6. 環境に配慮した製品の加工を推進します。
7. 会社周辺の清掃活動を行います。
8. 全職員に環境方針を周知して環境意識の向上を図ります。
9. エコアクション21に関連する法規制等を遵守します。
10. 環境経営の継続的改善に取り組みます。

制定日：2020年12月7日
改定日：

代表取締役 高木 克彦

□ 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
 株式会社丸真熱処理工業
 代表取締役 高木 克彦
- (2) 所在地
 本社 山梨県甲斐市玉川1578
 第二工場 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1683-5
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 責任者 専務取締役 若尾 博明 TEL：090-8814-0040
 担当者 生産技術 課長 志村 政博 TEL：090-4370-4682
- (4) 事業内容
 金属熱処理
 主要製品：一般金属(鋼材)
- (5) 事業の規模
 製品出荷額 5.5 億円(2022年10月～2023年9月)

	本社	第二工場	合計
従業員	37	4	41
延べ床面積	1048.15	657.96	1706.11

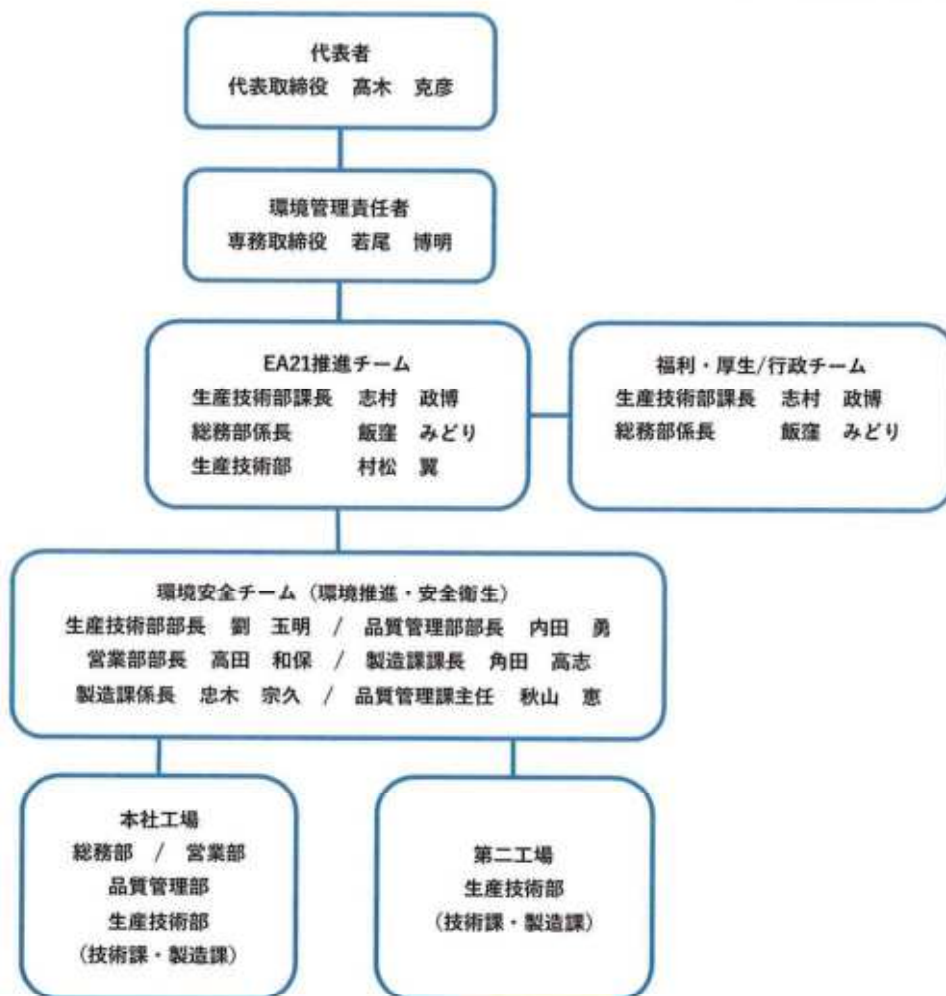
- (6) 事業年度 2022年10月1日～2023年9月30日



□ 認証・登録の対象組織・活動

- 登録事業者名： 株式会社丸真熱処理工業
 対象事業所： 本社工場
 第二工場
- 対象外： 無し
- 活動： 一般金属熱処理

□実施体制図及び役割・責任・権限表



【代表取締役】	【環境管理責任者】
<ul style="list-style-type: none"> ・経営における課題とチャンスを確認にする ・環境管理責任者の任命 ・実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を定期的に準備 ・実施体制において各自の役割及び責任を全従業員へ周知 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者に委任され環境経営システムの構築、運用の管理責任者 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動レポートの確認
【EA21推進チーム】	【福利・厚生/行政関係】
<ul style="list-style-type: none"> ・環境目標の策定・環境コミュニケーションの総括窓口 ・マネジメントシステムの構築・実施・維持・運用上の管理 ・文章及び記録の作成・管理・保管 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理・遵守評価の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内インフラ整備 ・各行政に関する資料作成・申請・保管
【環境安全チーム】	【全従業員】
<ul style="list-style-type: none"> ・5Sの推進 ・作業環境の問題点の是正・予防処置の実施 ・作業環境の改善 ・化学物質(化管法)のSDS等の調査・審議 ・環境活動の是正・予防を従業員に指導し結果を環境管理責任者へ報告 ・環境活動状況の確認と記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針と環境への取り組みの重要性を理解 ・環境経営方針と環境関連法規の遵守 ・環境活動を自主的・積極的に参加

制定日：2023年1月10日
代表取締役 高木 克彦

□主な環境負荷の実績

工場	項目	単位	2022年 (基準年)	2023年
本社工場	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	99,725	94,562
	廃棄物総排出量	Kg	31,197	32,333
	一般廃棄物排出量	Kg	2,407	2,512
	産業廃棄物排出量	Kg	28,790	29,821
第2工場	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	421,512	355,674

【本社工場】

電気小売業者 登録番号	A0269	電気事業者名		温室効果ガス排出係数 (Kg-CO2/KWh)	0.000
		東京電力エナジーパートナー(株)			
項目	年度	2022年 基準年	2023年		結果
			(目標)	(実績)	
自動車燃料による二酸化炭素削減	Kg-CO2 削減目標	55,295	54,742 99%	47,822 -	未達成
	原単位 達成率	0.82	0.82 -	0.87 94%	
その他燃料による二酸化炭素削減	Kg-CO2 削減目標	44,430	43,986 99%	46,740 -	未達成
	原単位 達成率	0.66	0.66 -	0.85 77%	
上記、二酸化炭素排出量合計	Kg-CO2 削減目標	99,725	98,727 99%	94,562 -	未達成
	原単位 達成率	1.49	1.47 -	1.72 85.6%	
一般廃棄物の削減	Kg 削減目標	2,407	2,407 100%	2,512 -	未達成
	達成率		-	96%	
水道水の削減(本社工場)	m ³ 削減目標	329	329 100%	335 -	未達成
	達成率		-	98%	
井戸水の削減(本社工場)	m ³ 削減目標	2,997	2,997 100%	5,628 -	未達成
	達成率		-	53%	
トリクレンの使用量削減	Kg 削減目標	36,540	- 99%	33,350 -	未達成
	原単位 達成率	0.54	0.54 -	0.61 89%	

※再生可能エネルギーのプランに変更したので二酸化炭素排出量は0となります。

【第2工場】

電気小売業者 登録番号	A0269	電気事業者名		温室効果ガス排出係数 (Kg-CO2/KWh)	0.451
		東京電力エナジーパートナー(株)			
電力による二酸化炭素削減(第2工場)	Kg-CO2 削減目標	421,512	- 99%	355,674 -	未達成
	原単位 達成率	6.28	6.21 -	6.46 96%	
上記、二酸化炭素排出量合計	Kg-CO2 削減目標	421,512	- 99.0%	355,674 -	未達成
	原単位 達成率	6.28	6.21 -	6.46 96.2%	
水道水の削減(第2工場)	m ³ 削減目標	118	118 100%	103 -	達成
	達成率		-	115%	
井戸水の削減(第2工場)	m ³ 削減目標	1,879	1,879 100%	2,245 119%	未達成
	達成率		-	84%	

□主な環境負荷の実績

活動項目	内容	2023年	2024年
		活動結果	活動予定
二酸化炭素排出量	不要照明の消灯	○	継続
	照明設備のLED化	○	継続
	空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	継続
	ドライレコーダーを導入し無駄な燃料使用の削減	○	継続
	作業ミスによる再処理の削減	△	継続
	営業車へGPSを導入し無駄な燃料使用の削減	×	検討
	評価及び 次年度の取組内容	処理の効率化で計画を立てていたが、受注減及び納期対応のため小ロットでも炉を動かす必要があったことから原単位で見ると非常に悪い結果となってしまった。 電気使用によるCO2排出が大きく減少したことで自動車燃料などの排出比率が高くなりました。逆を言えば対策効果大きい項目なので配送ルートの見直しなど使用量が削減出来るよう務めてください。	
廃棄物排出量	分別破棄の徹底 廃棄物の有価化	△	継続
	評価及び 次年度の取組内容	年間を通して小集団活動・安全衛生で5S活動した事やお客様の梱包材が増加してしまったことで未達となってしまった。事業ごみ、一般廃棄物を明確化し8月より対策として分別廃棄を開始した。来期はお客様から来た梱包材等は出来る限り返却する様、営業で対応してもらい廃棄物の削減に努めて下さい。	
水使用量	水使用量の把握と排水量確認	△	継続
	評価及び 次年度の取組内容	人員増加により本社工場は目標達成出来なかったが、第二工場は目標達成が出来た。来期は人員増加を含め、目標設定の見直しを行って下さい。	
化学物質使用量	代替物質の検討	△	継続
	評価及び 次年度の取組内容	年間を通じて受注が減少したが小径製品のトリクレン洗浄が増加したため目標が達成出来なかった。 約2年後の工場移転時はトリクレン洗浄機の廃止を優先に代替え設備の購入へ活動を進めてください。	

活動結果:○よくできた △さらに取組が必要 ×できなかった

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油)
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
悪臭防止法	悪臭発生物質(有機油剤、オイル等)
消防法(危険物)	焼入れ油、メタノール
消防法	高圧ガス製造所
公害防止組織法	焼入れ施設、洗浄機
化学物質管理促進法(PRTR法)	トリクロロエチレン
顧客要求事項	化学物質管理

法規制については随時調査を行い、追記・遵守をしていきます。
なお、違反、訴訟等は過去3年間(あるいはこれまで)ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

今年度は前年度より生産量が減少した事で、原単位での年間目標で見てしまうと、ほとんどの項目で未達となってしまったが、お客様の納期確保や満足度を確保しつつ社内の処理計画の見直しや法令順守の徹底を行う等、社員の考え方が変わっているのが感じられた。また、環境安全チームを筆頭に定期的な環境活動も定着しており会社として良い方向に進んでいると思う。

今期は二酸化炭素削減の一環として本社工場の電気の契約プランを環境に配慮したものに切り替え二酸化炭素排出量が0にすることが出来た。第2工場に関しては所属している工業団地の関係もあり簡単にプラン変更をすることは難しいが、会社全体としては二酸化炭素排出量を大きく減らすことに貢献できた期であった。廃棄物削減目標に関してはまだまだ改善の余地があるのでEA21推進チームや環境安全チームで意見を出し合い、より良い改善が出来るよう努めて欲しい。

本社工場・第二工場の井戸水については凍結による設備故障が発生したので凍結防止対策を進めること。法規遵守については今後も継続的に改訂・遵守に取り組むとともに特定工場に係る公害防止管理者の資格取得を継続して進めること。

前年度に「やまなしSDGs推進企業」に登録したので、SDGs達成に向けた取り組みを促進し、企業価値の向上を図るとともに、地域課題の解決を図る体制を築くことを通じて地方創生の取り組みを推進し、持続可能な企業を実現することを目的として自然との調和を考えながら地球環境保護に全社員で取り組んでいきたい。

□環境活動

